

外務大臣ノ手紙

露國臣民ハケラマレンコト、漁業權ヲ干レ九月十号様書送付一ニシテ、在在知部露公使照會公文及漁業權協定書譯文ヲ添、照會書中、交換權利ノ認否ニ干レテハ、露公使見解ニ對シ、露公使意見一進ハ、身存布件ハ其ノ決定ヲ待テ、要理ハ正當ト存ハ、此ハ甲名責了進ハ也

進下、中文譯書、公使様書、如ク便宜様、大臣改署、送付、此ハ、露公使、譯書也

十月五日

此後、予、構を以て民政を治め、
 吾等、其に民、一、ウラマレンコ、漢、蒙、權、年、に、別
 致、分、下、考、直、通、お、好、去、也、予、思、存、有、し、い、存
 同、即、之、考、直、通、回、在、在、本、年、（未）、以、以、去、本、年、改

陸軍省
 送達
 満密發第二八八號

陸軍

1030



外務大臣、

露西臣民ノラマレンコノ漢書格ニ于レ九月十号様
至道才一三三号ヲ以テ在本邦露西ノ使也此書又ハ漢
書其約書譯文ヲ修ク此書お年々交漢格利認不
ニテテテノ業ハ貴有見解、對レる者、意見ヲ述ビ
道ニ本は、甘ノ決定ヲ待テ交理スルヲモ當ト存
以似回答ナシト述ビ也

由テ本文露西ノ使 提出也故、便宜梅左様
ニ送付致シテ中ノ返也

海官ヨリ持太氏致書官々

露國臣民ノシラマシコトノ海軍相ニ于レテ其カ一ノ道
外海大臣ヨリ思言明クテ其ノ内ニテ其ノ道回答ナ
ル事最モ其ノ事

秀東

訓

言

大

三三

九月十日

海

電報
三三

九月十日

貴國臣民の権利を保護し、
 和親貴國の使より右のポーツマス條約十條
 の規定に依り確保せしむるものと旨別紙に
 契約書自本語譯文添附去るの附ラシテ申
 出及右契約書類の考査業者より之の様太
 民以署に控せしむる様致及右本大臣は
 貴國使に同答致置キタハシテ其旨を七月
 六日附機密の通事一〇号に信ラシテ以海軍
 及工部省の通事より貴國に於テ直接に交理ス
 ル事協定スル事ト存スル旨右ノ旨を以テ貴國に
 使に返戻スルカ以テ其旨を以テ解決スル事延セ
 したる事ノ旨を以テ公使に對シテ其旨を以テ

言し免上右契の書状に
其
兼
及以轉送
多可然以信誠相成
及以轉送
明治二十九年九月十五日

外務大臣兼青島領事



陸軍大臣兼青島領事

譯文

以昔葡船到島上及陳者サカシ之島、於之在
國漢船借之者、權利ニ突シテ下ノ諸君前任
者ト本使下ノ旨、書信トシテ後ノ以事あり
其原由ニ及國者ニ書ト右借之者ノ一人
ウラコレニコトトシテ、契約者日本語譯文及以
送付矣

右契約書、依リウラコレニコトトシテ、
一月十号(一日)マデサカシ之島、於之在
場ニ於テ漢書ニ於事スルノ權利ヲ取得シ
ルモノナルコトヲ見下ニ於テ、少譯悉ク相成事ト
存候、日本帝國國以存、ポーワマス條約第十
條、規定ニ依リ、同島、日本國ニ讓与スルニ成

ニテ貴國臣民ノ完全ニ營業ノ從事シ且財産
權ヲ行使スルニ於テ支持セラズキ旨約東ニシクハ
勿クウララレシコトハ前記ノ期限マテハ其國
友憲トノ契約ニ定メテト同ノ條件ノ下ニ右
漢場ニ於テハ種々營業ノ從事スル權利
ヲ有スルニ許サレタリ

貴使ハ此ノ案ニ向テ致シ表シ及致ス
キルルニシテハハリニテ也(東
亞ノ報)

一貴國ノ使バクメテツ

外務大臣西園寺公使下

贍本寫 翻譯

契約書

千九百年八月二十日サガレシ島軍務知事陸軍少
將リヤブスラハ會議決定ノ上千八百九十九年二月四日
勅裁ヲ經タル規定ニ基キアストラハシ平民ガウリー
ルアマワーラクラマレシコトナリ契約ヲ結ブ

一 アストラハシ平民ガウリールクラマレシコトニ千九百十
年一月一日迄サガレシ島ニ於テ魚撈及水産物製
造ノ為メアニーワリ及ヒテルパーニヤク湾ニ於テ左
記ノ箇所ヲ貸付ス
イ、ホロナヤ河分譯

投網場四箇所 地區 九箇所

此全面積ハ四テシヤチーナハ八百平方サゼンニシ
テ細別スレバ左ノ如シ

第一ヤルワヤバーケ灣地區四箇所全面積ニテシ
ヤチーナ

第二同灣内投網支場ハロソシエヤグバニ箇所アリ
各投網場毎々二百平方サゼンノ地區アリ

第三ホロヤ河投網場二箇所ハ河ロツ距ル一密
里ノ河區ヲ合ハ一投網場毎々二百平方サ
ゼンノ地區アリ別々此河口近リ具右岸
於テニテシヤチーナノ地區ヲ有ス

ロ、ア、ニ、ヤ、シ、湾、分、訳

第一、ガウイーナ、パ、イ、チ、湾

二千四百四十平方サ、セ、ン、ノ、地、區、ヲ、有、ス

湾、ニ、接、近、シ、テ、補、助、區、即、チ、ウ、オ、エ、ウ、ド、ス、カ、ヤ

パ、イ、チ、湾

四百八十平方サ、セ、ン、ノ、地、區、ヲ、有、ス

ウ、オ、ド、パ、イ、ト、ウ、ロ、ー、チ、ス、チ、エ

千七百五十平方サ、セ、ン、ノ、地、區、ヲ、有、ス

此、海、岸、線、長、二、百、五、十、サ、セ、ン

第二、テ、レ、ヤ、チ、ー、ナ、ノ、地、區、ヲ、有、ス、ル、リ、ヤ、ト、マ、リ、湾

及、之、ニ、隣、接、セ、ル、ア、ブ、ー、チ、湾

千六百平方サーゼンノ地區ヲ有ス

ハコバルピーニヤノ灣ニ九海面區

面積二百平方サーゼン宛投網場ヲ有ス

内三箇所ハホロナヤノ河口ヨリ左ニ五露里半

六箇所ハ同河口ヨリ右ニ七露里

以上ノ地區及ヒ投網場ハ自然ノ決之ヲクマレシコ

ニ貸付セラルシ以テクマレシコハ之ガ為メ派遣

セラレタル區劃者ヲ自己ノ計算ニテ貸與區域

ニ招聘スルヲ要ス

作製セラルタル図ハ之ヲサカレシ島軍務知事

於テ官署ニ保管シ其証明済ノ謄寫圖ヲク

ラマレニコニ附與スルモノトス但シ賸寫費用ハクラ
マレニコノ負担トス

ニ厥條ニ示シタル地區及投網場ハ千八百九十九年
一月一日ヨリ起算シ借用期限ノ最六個年ハ之ヲ
無償ニシラクラマレニコノ使用ニ委スル

前記期限内ハ日本製造方法ニ依ル鯨糟及他ノ
魚類ノ製造品ヲ除キクラマレニコハサカレニ島
輸出水産品ノ税金漢學ニ必要ナル建築木材
及燃料ノ為メ具近傍ノ指定セラルルニ市場所ヨリ
得タル木材ノ代金ヲ免除セラルルニ但シ鯨糟製造
ノ為メ使用シタル燃料ハ千八百九十九年一月一日

沿黒龍江州軍務知事ノ制定ニタル表目ニ依リ
之ヲ支拂フキモトス
其他ケラマレシコトハ借用期限内ヤガレシ島沿岸
漁業ニ関シ官憲ノ制定シタル又ハ制定セラルベキ
規則ヲ遵守スルコト
免稅借用期限經過後即チ千九百五年一月一日
以後ノ借用期限内ニケラマレシコトハ税金其他制
定セラレタル公課ニ関シテハ千八百九十八年六月二十
六日閣議決定ノ上勅裁ヲ經タル規定ニ基キ漢
業ノ爲メ商人セメテスイデニビシニ漢區貸付ヲ許
可シタルト同條件ヲ遵守スルコト即チ本契約ノカ

一、条々指名セル漢區使用料トシテ借用區面積
一平方カレセシ毎、一哥宛合計二百三十二留七
十哥ヲ一箇年取即チ各借用年度ノ一月十五
日迄ニ國庫ニ納付スル
又漢期經過後其年ノ十二月三十一日迄ニ借用年
度ノ終迄ニ獲得シタル魚類及水産製品ノ數
量ニ對シ官憲制定シタル又ハ制定セラル可キ公
課ヲ納付スルニ營業上使用シタル木材ニ對シテハ
他ノ露國人ト同等ニ支拂ノ可シ
三、借用人ハ地方住民ガ自己使用ヲ為メノ海產業及
官憲ヨリ海藻採集業其他一般海產業ノ權

利ヲ附與セムルニキルテノ營業者ヲ妨害シ且ツ
同人ニ貸與セラレタル沿岸ニ於テ四ヶエーノニラ
使用スルヲ妨害スルヲ得ス

四、借用人ノ本契約書ニ指定セラレタル換區ニ於テハ
借入ノ最取初五ヶ年平ハ勞働者數ノ差割殘餘ニ年
ハ差割五分以上ノ露國臣民ヲ使用スルコト若シ
使用人ノ營業ニ際シ露國臣民勞働者ガ指
定歩割ニ相當セサルトキハ借用人ノ不足勞働者
ノ平均賃銀ノ二倍ニ相當スル罰金ヲ國庫ニ納
付スルコト營業地ノ事務管理ハ常ニ露國人ノ
手ニ依リテ為サルヲ要ス

五、漢業期中労働者ノ医療ノ為ニケリラマレシコトハ
自費ヲ以テ十一箇所ノ營業区ヲ有スルコトルベ
シヤ。湾ニケルサコノ区ニ医ノ指シセル藥劑及医
療材料ヲ貯ヘ置キナリエ。村又ニケラフメネー
ノスキニ港ニ在ル監獄署者病人ニ漢期中一箇
月五十留ヲ支拂ヒ医療ヲ求ム。同看病人舎
閉鎖ノ後ケラマレシコトハ自費ヲ以テ看病人ヲ
給養シ置クコトヲ要ス。但シアニワ湾營業地
ニケラフ港ヨリ近距離ニ存在シ同港ニハ常ニ
監獄医員在任スルヲ以テ同營業地ニハ看病
人設置スルノ義務ナキモノトス

六、グラマレシニコミ貸付シタル區域ハ農務國有財產務省ノ認可及ヒサガシク島軍務署ノ承認在ルニアラサシハ他人又ハ數多他人ノ讓渡ヲ許可セラサレモグラマレシニコノ事業擴張ノ爲メ共同者ヲ採用スルコトハ禁止セラルコトナシ

七、借入契約期限經過後ハ契約期限終了前二箇年以内ニ借入継続ノ希望ヲ申出ニタル場合ニ限りグラマレシニコハ該區域借入ノ新契約ヲ官憲ト結ブキニ優先權ヲ附與セラルコト

八、借入人ハ後日漢業場ヲ賃借保有セサルニ至ルトキハ後継者ハ營業建築物ハ相互協定ノ上相

當ノ代價ヲ以テ之ヲ讓渡スルリ該後継者ハ之
 ヲ込ス継承スルノ義務ヲ有スルモノトス
 若シ借入金ト後継者ト間ニ該物件ニ関シ田
 滿^ルハ協議調^ハサルトモ^ハ双方ヨリ借入金其区
 域^ノ借借保有セサル^ニ至リタレバ日ヨリ三箇月以
 内ニ協議不調ノ原因ヲ詳細ニ具シ沼黒龍江
 州國有財産管理署ニ届出ツベシ且ツ同時ニ
 其指定シタル仲裁人ヲ指定スルヲ要ス然ルト
 キハ管理署自ラ之ヲ調停シ又ハ他ニ調停ヲ委
 托シ該仲裁人ノ評價ニ依リ建築物ノ價額ヲ
 決^スルヤ^ハモ^トス但シ官憲ハ斯ル建築物ヲ

七
 四

引受ケルノ義務ナキモノトス

九、クラマレシコトノ企業之際シテ外國人ヲ關係者トシテ
加入セシメタルトモハクラマレシコトノ具典ニシテ凡テ
免稅權及ニ優ノ外國人又ハ露國企業者ヨリモ優
等ニ特權ヲ失ヒ且ツ借用区域ノ管業上ニ付
テハサカレシニ島漢業ノ為メ政府ヨリ發布セラレ
タル及ヒ發布セラレルルモ凡テノ規定ニ從フコト

十、免稅借用期限六箇年經過後即チ千九百五
年一月一日以後本契約第二條ニ示シタル期限内
クラマレシコトノ土地使用料魚稅及魚產物稅ヲ
國庫ニ納付スルニ具ノ滞納シタルトモハ斯ル場

合ノ為メ法律ヲ以テ定メラシタル千八百九十三年
發布ノ納稅條例第八編第一章第七十七、七十八
七十九、七十、七十一條及ニ其他ノ条項ヲ通用シ罰金ヲ
罰モラシムル但シ納稅最終期限ハ三箇月以上ヲ
延長スルヲ得ル

士免稅借入六箇年ノ終期迄、即チ千九百五年一月
一日迄ニケラマシキコトハ本契約ニ依リ借入レタル全區
域ニ營業ヲ開始シ且ツ労働者居住ノ為メ必要
ナル一時的又ハ永久的ノ屋舎ヲ建築スルヲ要ス
前項ノ要件ヲ履行セサルトキハ借用人ハ指定シ
タル期日迄ニ營業ヲ開始セラシムル区域又ハ居住

ノ為ニ必要ナル屋舎ヲ建築セサル区域ヲ使用シ得
サルニ至ルコ

其他若シ区域集会所ノ中央タルニ地点ヲ獲得シ
タル産物、漢具及シ其他營業上ニ必要ナル物件ヲ
保存スル為ニ堅牢ナル倉庫ヲ建築スルヲ要ス
十二ヶ条ニ於テ本契約ノ各条項ヲ嚴重ニ且ツ誠
實ニ遵守スルニキハ勿論、其中ノ各条項ヲトモ遵守
セザルトキハ契約不履行ト看做スルコト
前項ノ場合ニ於テハ免稅借用六箇年即チ千九
百五年迄ハケラマシニコト具借用セル区域ノ營業
業權ヲ失フコト、但シ違約金ヲ納付スルニ及ハスト

雖も借用区域に建設せしむる建築物の本契約
 第八條の規定に基き建築者は譲渡する義務
 を負ふ、免稅借用年限を満了し残余の借用年
 期中に於ては前記の外違約金をトシテ違約年
 度に對し其借用債金ノ三倍ノ金額即チ六百九
 十八留十兩ノ納付スルに但し納付し得サル場合ハ
 区域内に建築物及び工場等シテ、所屬せる營業
 物に當り沒收せラルベシ
 十三本契約締結に要する費用及ヒ契約記載ノ証
 券用紙ノ代價シテラマレシコトノ負擔ヲルベシ
 十四本契約ノ成立に於て島津事務を承継する之ヲ

官署に保存し証明済ノ契約謄本ヲウケテ
交付ス

忽本ハ「サカレ」島軍務知事陸軍少将リヤブ
ノクニ氏及アストラハニ平民ガウリールツラマシコ
署ヨリス

本謄本ハ忽本ト相違ナシ

官署代理事務官副署者

代理事務管理官点検署名

契約書ノ本謄本ハ「アストラハニ」平民ガウリール
ツラマシコニ交付シタルコトヲサカレニ島軍務知
事ハ官印ヲ押捺シテ証明ス

官署代理事務官署名
代理事務管理官署名

千九百年八月三十日、第ハ六八六号

セミオフデニビ」クラマレンコ及ビリツチカ徒前露國
政府ノ長期免許契約ニ依リ經營シタリシ南部樺太漁場
ノ處令ニ関スル見書

薩哈連島露國官憲ハ長期ノ契約ノ期限ヲ定メ「セミオフデニビ」
商會ニ千九百年一月ヨリ、露國國民「クラマレンコ」ニ千八百九十九年
一月ヨリ各來千九百十年一月ヨリ同島南部沿岸ニ定メ地区内於
テ專ラ沿岸漁業ヲ營ムノ特權ヲ付與シタリキ（參考書第一号）
免許人等ハ此免許契約ニ基キ數年未其經營ニ從事シツツアリシ
カ曰露兩國間ニ戰端ヲ開クニ及ビテ一時之ヲ拋棄スル已ラ得ルに至リ
薩哈連島ハ明治三十八年七月我軍ノ占領ニ歸シタリシカ我軍專事
當局者ハ占領地ニ對スルニ戰權ノ作用ニ由リ翌八月七日以テ樺太
島漁業做規則ヲ發布セリ（參考書第二号）同規則ハ一年毎ニ漁

業ノ許可ヲ與フルノ方針ヲ取リ許可ノ方法トシテハ各漁場毎ニ漁業料
ヲ競争入札ニ附シ最高額入札ヲ為ス者ヲ落札者トシテ之ニ該漁場
ヲ下付スルノ原則ヲ定メタルト同時ニ方ニ於テハ一定ノ要件ヲ具備ス者
ニ對シテハ優先ノ詮議ヲ為ス可トアルニキ旨ヲ規定シ以テ競争入札
ノ原則ニ對シテ除外例ヲ設ケタリ右優先ノ詮議ヲ受ケ可トアルニキ旨ヲ
列挙スル假規則第四條ハ其第三條ニ樺太島在住ノ露國人ニシテ
従来露國官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケ現ニ該漁場ニ於テ自ラ漁業
ヲ營ム者ヲ指シ示シアリ(假規則第三條第三條及第四條參照)然
ルニ此特例ヲ有ス者ハ假規則第十八條ノ規定ニ依リ同年九月五日迄
願書ヲ提出タスニキノ規定ナリ方ニ露國臣民ハ實際上下右ノ限迄ニ優
先詮議ノ出願ヲ為シタルモノナカリニカ為シ露國人ニシテ明治三十八九年
度漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ之モ之ナカリシナリ

然ルニ明治三十八年九月五日ヲ以テ調印セラレタル日露講和條約ハ樺太

島南部ノ主権ヲ帝國ニ讓共スルト同時ニ其第十條ニ於テ割讓地域内ニ於テ露國臣民ノ財產權ハ之ヲ尊重スヘキコトヲ定メ其文左ノ如シ

日本國ニ讓共セラレタル地域ノ住民タル露西亞臣民ニ付テハ其不

動產ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ該露西亞國臣

民ニ於テ讓共地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權

ニ服従スルコトヲ條件トシテ完全ニ其職業ニ従事シ且財產權ヲ

行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日本國ハ政治上又ハ行政上ノ推能ヲ

失ヒタル住民ニ對シ可記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地

ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前記住民ノ財產權カ

完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

セミオウフ「テンビール」クラマレンコ及「ビリツチ」ノ諸氏ハ此規定ノ文言

ヲ楯トシ其ノ曩ニ露國政府ヲ免許セラレタリシ漁業契約ハ今猶有

效ホラトテ主張シ其追認ヲ要求シツツアリ而シテ此主張ハ露國政

府ノ極力支持スル所ナリ

依テ安ホスルニ露國漁業免許人等ノ權利ハ講和條約第十條ノ規定ニ依リ保護セラレタルモノナリ 其理由如何ハ後段之ヲ説述スルコトトシ先及對論ニ付キ其ノ如何ハ理由アルカラ審査セムトス蓋シ露國漁業免許人等ノ權利ハ講和條約第十條ノ規定ニ依リ完全ニ保護セラレタルモノトシ非サルヤ否ヤノ問題ヲ政先スルニ當リ時問モ忘却スヘカラス一事アリ他ナシ或地域ニ對スル主權ノ移動アリタレハトテ其地域内ニ於ケル私權ハ何等ノ影響有ラ受クルモノニ非サルコト國際法上ノ原則トシテ萬國ノ公認スル所ナルコト即是ナリ國際法上ノ原則既ニ此ノ如クナルカ故ニ其例外ハ之ヲ證明セサルニカラスニテ苟モ除外例ニ對スルコトノ證明ナキ限り公認則當然ノ適用アルモノト推定セラルルモノトス故ニ本件ニ関シテモ露國免許人等ノ權利カ講和條約ノ規定ニ依リ保護セラルヘキモノニ非サルコトヲ論結セムカ為ニハ及證ヲ提出スルコトヲ得ルヘキコトノ論據ヲ具

俾ヌトヲ必要トス

然ルニ消極說第一ノ論據、講和條約第十條ニ所謂「日本國ニ讓
與セラレタル地域ノ住民」(habitants des territoires cédés au

Japan, inhabitants of the territory ceded to Japan)、

文辭ニ存シ前記ノ文辭ヲ狹義ニ解シ生活ノ中心點タル民法上ノ住所ヲ
割讓地域内ニ有スル者ニ非サレ條約第十條ノ保護ヲ亨了有ス(キモ)
ニ非スト) 斷定セトスルモノナリ其說ニ曰ク「セミヨノフ」(テンビ)ハ免許契約
ノ文面上明記シアルカ如ク浦塩斯德ノ商人ナリ「クラマレニコ」ハアスト
ラハシノ市民ニシテ戰爭中ハ露都ニ在リ「ヒリツチ」ハ露國義勇兵
ニテ我捕虜中ニ在リクリト去フ即ケ該國人ハ日露戰爭中條約締
結批准ノ當時樺太ニ在任セシモノニ非ス又往時ニ於テモ生活ノ本
據ヲ樺太ニ置キシ者ニ非ス故ニ講和條約ノ所謂住民ニ非ス後テ
該條約ノ保護ヲ受クキ露國臣民ニ非スト又曰ク「短時ノ間樺太

ニ来ル者ハ日露講和條約ノ第十條ニ入ラス第十條ニ本國ニ退去スル
ノ自由ヲ留保スルモナリ短期ノミ来リ住居スル人民カ如何ニテ退去スル
ヲ得キヤ次ニ講和條約ハ其第十條未改ニ於テ「日本國ハ政治上
又ハ行政上ノ権能ヲ失ヒタル住民ニ對シテ前記地域ニ於ケル居住権ヲ
撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スルヲ得キ充分ノ自由ヲ有スト規定
スルヲ以テ見ルモ本條ノ規定ハ引續キ在任スル者ニ對スルコトヲ推定シ
得ヘク毎年の約六月浦汐ニ歸リ居ル人ニ退去ヲ命タルモノニ非ス此
條約ニ讓與地域ニ在留セムト欲スル者ハ云々ト云ヒ滯期ニ限り未住
スル人ヲ意味セサルハ明瞭ナリト此ノ如ク論者ハ何レモ本件ノ規定ヲ
以テ恰モ「生活ノ中心點タル民衆上ノ住所ヲ割讓地域内ニ有スル者
ト明言セラレタルカ如ク解スルニ似タリ然レトモ「住民」ノ文辭ハ同條中
三箇所ニ使用セラレ居リ政治上又ハ行政上ノ権能ヲ失ヒタル住民ニ
對シ前記地域内ニ於ケル居住権ヲ撤回シ云々ト云フカ如ク住民ノ

用語ハ居住スル人民即住所假住所ノ居所等ヲ有スル者ト解スルヲ
親當ナリトス又佛語「アビタシ」英語「インハビタシ」ノ用語モ亦必ニ論
者ノ主張スルカ如キ狹義ヲ有スルモノニ非ラズト人ノ知所ナリ
消極說第ニ論據ハ講和條約第十條「日本國ノ法律及官轄
權ニ服従スルコトヲ條件トシテ完全ニ其職業ニ従事シ且財産権
ヲ行使スルニ於テ支持保護セラレシトアル」文言ヲ楯トシ帝國政府カ
露國人權利ヲ確認スル條件ハ日本法律ニ服従スルコトニ在リ而シテ
日本國ノ法律タル樺太漁業假規則ハ其第四條第三号ヲ以テ露
國免許人等カ優先ノ詮議ヲ受ケキ特例ヲ開キタル露國人等ハ
其出領期限タル九月五日迄ハ出領ヲ為サザリニ因リ彼等自ラ其
特典ヲ拋棄シタルモノナリト謂フニ在リ此見解ハ漁業假規則
カ戰爭継続中文戰權作用ニ依リ發布セラレタルモノナリトテ却
シ陪モ占領中ノ假規則ヲ以テ其後ニ締結セラレタル講和條約ノ規

定ヲ左右シ得ルカ如キ謬想ヨリ生シタルモノナリ凡ソ國家ハ其内國法
制ノ規定ヲ援引シテ國際法上ノ責任ヲ免除セズヘキモノニ非サルコト
國際法ノ原則トシテ疑ナキ所ナリ以上ハ講和條約ノ規定ハ其自體ニ
於テ獨テ解釋ヲ下スルモノニテ漁業假規則ノ如キハ條約ノ規定
ニ違背スルヤ否ヤニ因リ其效力ノ有無ヲ決定セズヘキモノナリ同條
約カ日本ノ法律及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテト明言シタ
ルハ帝國ノ法權ニ服從シ且帝國ノ法規ヲ遵奉スルコトヲ西ガ求
ムルモノニ外ナラス帝國ノ法律ヲ以テ條約ノ趣旨ト矛盾スル規定ヲ
設クルハ是即條約違反ノ行為ニシテ假ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルハ
トテ之カ為ニ條約規定ノ効果ヲ廢止スル能ハルコト當然ノ事

理ナリトス

消極說ノ第三ヲ論據ハ漁業權ハ財產權ニ非ストスルコト是レナリ
其說ニ曰ク元來漁業鑛業ノ如キ特許ニ依リテ箇人ノ有スル特權

ハ普通ニ財産権ト解釋セザル慣例ナリト、財産権ノ觀念如何ト
モカ如キハ民法學上ノ大問題トシテ精確ニ之ヲ論定スルコト決シテ
容易ノ業ニ非ラレト雖モ茲ニ完全ニ其職業ニ従事シ且財産権
ヲ行使スルコトモカ如キ財産権 (*droits de propriété*)
rights of property)ノ語ハ通常ノ用語トシテ恰モ財産上ノ價
格ヲ有スル權利ト言フニ異ナラス即チ廣ク私法上ノ權利ヲ概稱
シタルモノト解スルコト穩當ニシテ夫ノ漁業権、鑛業権等ヲ除
外シタル狹義ノ財産権ナリト推測スルキノ理由ハ毫モ之アルコト
ナシ況ニヤ多數ノ學者ハ漁業権モ亦一種ノ財産権ト解スルキ
モノナリトスル說ニ一致スルニ於テラヤ

此ノ如ク消極說ノ論據ハ一トシテ的確ナルモノナク何レモ牽強附會
ノ說タルヲ免レス即チ領土主權ノ移動ノ其地域内ノ私権關係
ヲ変更スルコトナキ國際法上ノ一般原則ニ依リ本件露國漁業免

詩人等ノ權利ハ之ヲ無シテ得サルノ論結ニ到達スル外ナシ
更ニ歩ヲ進メテ條約締結當時ノ西國全權委員ハ如何ナル
意思ヲ有セシヤヲ尋フルニ積極說ノ根拠ハ寧トシテ拔クカラサ
ルモアルヲ見ルナリ何ヤ曰露講和談判筆記附録非正式會見
要録(第三六〇及三六一頁參照)ニ依ルニ「山井ツテ」氏ノ言ニ「領土割
讓ハ該領土ニ於ケル住民ノ私權ニ害ヲ及ササルコトト為スニ非サハ
公平ヲ欲クナシ領土ニ於ケル主權ヲ移轉スル結果新主權者ト
ル日本帝國ノ法律、法權ニ服從スル以テ既有人ノ權利ハ之ヲ尊重
スルコトト欲シクシ(中畧)同島(樺太)ニハ現ニ或年限間官憲
ト特約ヲ結ヒテ水運業ヲ特權ヲ有スモノアリ尤此等特權ヲ
有スモノハ本員ノ記憶スル所ニテハセシオノフ「商會外」ニニテ
極メテ小教ナルハ實際ニ於テハ左ニシテ大事件ニハ非サルモ兎ニ角
現住民ノ是道有シ居ル所有權及營業權ハ主權ノ移轉ニ拘

又之ヲ尊重スルヲト為ササルハカラス云々トアリ小村男之ニ答ヘテ
日本ノ法律ニ服後セシムコトノ條件ノ下ニ於テ該地ニ存在スル露國
臣民ノ所有權及營業權ヲ尊重シ且權利ヲ欲ケル者ニ對シテ
モ所有權ヲ侵害セサルヘキコトヲ約スルハ差支ナキヲ以テ左様ニ取計
ハムト明言シ以テ「セミオノ」商會外一二ノ漢業特許契約ハ之ヲ
尊重スルヘキモノタルコトヲ容認セラレタルナリ（參考書第三号）
尚本件ニ関スル小村男爵ノ直話中ニモ「露國全權ヨリ其割讓
地ニ於ケル露人ノ漢業權ヲ確認セムコトヲ請求シタル以上ハ我直
ニ之ニ應スルノ外ナキヲ思ヒ断然同意ヲ表明シタルナリ蓋シ我若
之ヲ拒ムニ於テハ彼ハ其ノ辛クシテ我ニ為シタル漢業協約締
結ノ約束ヲモ撤回スルニ至ルノ虞アリタルハナリ云々トアリテ（參考書
第四号）全權當時ノ意思ハ點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ條約
締結當時ノ意思此ノ如ク明白ナルニミナラス之ヲ國際法ノ理論

ニ照シ到底有力ナル又對論ヲ主張スルコト能ハサル本問題ニ對シ
帝國政府ハ如何ニシテ彼等露國漢業免許人等ノ權利ヲ否認
スニトヲ得ヘキヤ

試ニ帝國政府カ牽強附會ノ法理論ニ基キ露國免許人等ノ權
利ヲ否認シタルモト假定シ其ノ果シテ如何ナル結果ヲ生スヘキカラ
一考セム露國政府ハ其旧領南部樺太ニ於ケル自國臣民ノ漢
業權カ講和條約ノ規定ニ依リ保障セラルモノトスル
意見ヲ固執シ遂ニ仲裁カ到問題トシテ之ヲ解釋セムコトヲ
提議スルナルニ抑々本件ノ如キハ彼我兩國間ニ存在スル條約規
定ノ解釈ニ関スル單純ナル法律問題ニシテ決シテ國家ノ安危
存亡獨立若ハ名譽言ニ影響有スヘキ性質ヲ有スルモノニ非サルカ
故ニ國際仲裁カ到所ニ提出セスヘキ好箇ノ一事件タルナリ露國
政府ハ我ニ挑ニ仲裁カ到ヲ以テスルモノト假定セヨ之ヲ近時ノ

歐洲諸國ニ於ケル仲裁々判ノ風潮ニ秘旨ニ英佛其他ノ諸國モ亦露
國ノ提議ニ應スニキコトヲ帝國政府ニ從心恐ニテシラム事此ニ至ル
帝國政府ハ仲裁々判ニ於テ講和條約第十條ノ解釋ヲ露國ト争
フノ外ナク直モ勝算ナキ本件ヲ為ニ數年間徒ラニ困備心スルニ終
ラムノミ

露國漁業者カ其ノ巨量ニ露國官憲ト結ヒタル漁業免許契
約ニ依リ經營シタル南部樺太漁業権ハ帝國政府之ヲ追認スル
ノ外ナキハ純然ツル法理論トシテ明白ナルコト前數段所陳ノ如シ
然レニ翻テセシオノフ商會及ラコトニ特許條款ヲ關スル
三者何レモ薩哈噠島漁業ノ實質権ヲ露國臣民ニ回收セムト
スル精神ニ基キ作成セラレタルニシテ契約書ノ條項中ニ幾多我
ニ不利益ヲ規定ヲ包含セリ例ハセシオノフ商會ノ免許契
約書第四條ニ借込者ハ借込年限中最初五箇年間ハ一割以上次

回、五箇年間に割五分以上露國臣民ヲ雇入レサルハカラス又其地ニ
 於ケル營業者ハ支那ハ常ニ露國臣民ノ手ニ在ルキコトヲ要スルト
 規定シ又其第六條ニ於テ借込人ハ國財者ノ許可ヲ得ルニ非サル其
 借込ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズト明言スルカ如キ「クマレニコ」ニ免許
 契約書中ニ一定數ノ露國渡入及借込ノ轉債ニ関スルセシ
 才ノ商會免許契約書第四條及第六條ノ規定ト同趣之旨ノ規
 定ヲ包含スル外尚其第九條ニ於テ外國人ヲ共同者ニ加フル特
 例ヲ示シニコ「徒」外國及露國起業者對シ付典セラレテ特
 典又ハ特權ヲ失フキモノトスルノ禁制アルカ如キ「下」ニテ前記漢業權
 回收ノ精神ヲ反映セラルルニ漢場經營對シ税金格格外低廉
 ナルカキモ亦然リ此事タルハ露國力權太島全部ヲ領有シタリシ
 日露交戰前時代ニ於テハ露國ノ政策トシテ固ニ當然ノ事理ニ
 屬スト雖モ帝國政府力同島ノ南部ヲ讓受タル今日於テハ我

新領土ノ経営ニ對シテ重大ナル障礙アリ尤モ前記諸点中漢夫ノ數
共同者加入ノコト及借込轉貸ノコト等ハ何レモ免許人等ニ對スル制限
ニ過キスニテ政府ハ少シモ之ニ依テ拘束セラルモノニ非ス唯タ其ノ格外
ノ低廉ナル税金ノミハ政府ニ對スル制限ニテ其ノ自由ニ變更スルコト
能ハル所ナリ徒テ此等ノ諸点ヲ唯一ノ根據トシテ前記免許契約ヲ
否認セムトスルハ法理論トシテ到底之ヲ維持スルヲ得サル所ナリ
此ノ如ク法理上ノ解釋論トシテ露國漢業者ノ權利ハ之ヲ否認ス
ルニ由テキト同時ニ他ノ一方ニ於テ我國新領土經營上ヨリ考フト一割
モ早ク其漢場經營權ヲ消滅セシムルノ必要アリトスルハ南部樺
太漢場ノ處方策ハ唯漢場買收ノ途アルニ即チ相當ノ補償
額ヲ露國漢業者ニ與ヘテ其漢場ニ對スル權利ヲ買收スルコト是
ナリ是ノ如キ帝國政府ノ為ニハ区々タル小問題ノ為ニ大局上不利ノ地
位ニ陷ルノ危険ナカラシムルト同時ニ露國漢業者ノ為ニ十分ノ満足ヲ

興アルモノニシテ一筆而得ノ策ト謂ハルヘカラス若シ夫レ補償額數量ノ問題ニ至リテハ交渉ノ結果遂ニ妥協ニ至ルノ望ニヘク必シモ踏越スヘカラス難関ニ非サルヘシ然レトモ萬一不幸ニシテ意外ノ事情發生シ双方妥協ニ至ラサルトキハ露人漁業者ノ権利ヲ確認スルノ外ナキハ固ヨリ言フ俟タサル所ナリトス

因ニ明治三十九年三月二十日附露國臨時代理公使「コザロフ」氏ノ来翰ニ依ル露國政府ハ明治三十七年中五箇年ノ契約期限ヲ以テ南部薩哈噠島ニ於ケル十一箇所ノ漁場ノ長期借区ヲ露國臣民「クリサント・ヒリツチ」ニ許可シタル趣ナリ右ノ長期借区ハ戦争開始後許可セラレタルモノニ相違ナキト雖モ「ヒリツチ」モハ數年未年一年許可ヲ得テ漁場ヲ經營シツツアリタルモノニシテ該漁場ニ於テ高價ナル建築物ヲ有シ且夙ニ露國官憲ニ對シ長期借区ノ免許ヲ出願セシモノナリトイフ等實ニ照合スルトキハ

以上事實ハ野村胡堂ノ談話ニ依ル

此免許契約ヲ以テ特ニ日本政府ヲ詐害セムト是悪意ニ出テタル
モノト解スルヲ能ハサルカ故ニ是亦反對ノ證明ナキ限りハ均シク講
和條約第卅条ノ規定ニ依リ遵守セラルキモノト謂ハレラ得ズ
尚「セ」ヨノ「フ」デ「ビ」商會ノ免許期間延長セラレタリトノ風説
ナキニ非サルモ露國代表者ヨリハ此點ニ関シ何等申出アリタルコトナ
キカ故ニ蓋シ事實ニ非サルニシト疑懼ス若シ右ノ事^{ル説カ}實ナリトスルモ
今日迄入手ニシル材料ヲハ吾期間ノ延長カ悪意ヲ以テ為サレタ
ルモノナリヤ否ヤ充分明白ナラサルカ故ニ之ヲ否認スルコトヲ得ヘキヤ否
ヤラ断言スルコト能ハスト雖モ是右期間延長許可ノ年月日及許
可ノ條件其他ノ事情ヲリ後合テ露國政府ノ悪意ヲ論決ス
ルコトヲ得ル場合ニ於テハ帝國政府ニ否認スルヲ得ヘキト勿論
ナリ

參考書

- 一 明治三十八年八月陸軍省告示第百十五号 樺太漁業假規則
- 二 「セミヨノウ」デヒ「シムラ」合資會會長期借込契約及「クワシ」
漁業特許契約
- 三 日露講和談判筆記附録 非正式會見要録一節
- 四 小村男爵總統紀事記

参考書第一號

セミヨノフ「デニビー」合資商會長期借區契約

浦潮斯德商人セミヨノフ及ヒ「デニビー」ハ薩哈噠島西海岸「トコンボ」岬「バ

イカサ」岬ノ間ニ於ケル二十一ヶ所地面總坪數九三十三「デシヤケ」海岸延

長二千八百「サアジエ」ヲ向「十」年間借區スルコトヲ許可セラレタリ其ノ借

區ノ條項左ノ如シ

第一條 借區人ハ每一「サアジエ」平方坪ニ付「壹」哥ヲ納付シ且ツ最初三

年間ニ各澳場内ニ營業上ノ建物ヲ設備スル為メ拾萬留ヨリ少ナ

カラサル費用ヲ支出セサルヘカラス

第二條 澳業ヲ営ムニ際シ借區人ハ借區年限中薩哈噠島沿岸ニ

於テ現今實施中ニ拘ル海産規則及將來行政廳ヨリ公布スル諸

規則ヲ遵奉スヘキハ勿論初年ヨリ同規則ニ定ムラレタル税金ヲ上納シ
且ツ毎年五十留以上ノ税金即チ魚類拾萬布度以上製造スル
責アルモトス

1074

第三條 借區人ハ地方住民カ自己ノ需用ニ海産業ヲ管ムコトヲ妨害

スヘカラサルノミナラス行政廳ノ許可ヲ得テ昆布採収及ヒ他ノ海産業ヲ
管メテ有スル營業者并ニ海岸線通路ニ障礙ヲ與スヘカラス

第四條 借區人ハ借區年限中最初五年間ハ一割以上次回ノ五年間

ハ一割五分以上露國臣民ヲ雇入レサルヘカラス又其地ニ於ケル營業ノ支
配ハ常ニ露國臣民ノ手裡ニアルヘキコトヲ要ス

第五條 借區人ハ労働夫ニ衛生上ノ注意ト醫術上ノ補助ヲ與フル為

一人夫二百人以下ナルキハ補師匠一名若シ又其以上ナルキハ補師匠
又ニ藩師一名ヲ自費ニテ住置クノ義務ヲ有ス

第六條 借区ノ國財者ノ許可ヲ得ルニテ其借区ヲ他人ニ讓
渡スコトヲ得ス然レトモ其事業擴張ノ為メ仲間營業者ヲ加セシ
ムルハ此限ニアラス

第七條 十年ノ契約年限ヲ經過シタル後同一借区ニ付キ更ニ政
府ト契約ヲ締結セシムルキハ前借区人「セニヨリ」及「ロデニビ」
ハ他人ニ對シ特權ヲ付與セラルベシ

但シ此場合ニ借区又ハ契約終期二年間ニ契約ヲ繼續ス自己ノ
希望ヲ届ケ置カサルヘカラス

第八條 借區契約履行ヲ擔保スル為メ借區人ハ契約締結際保
証金ニシテ貳千五百圓ヲ納付スル事

第九條 借區人ハ借區契約解除ノ後其區域内ニ在ル營業上ノ
諸建物ヲ後引請人ニ譲渡サルハカラス而シテ後者ハ協議ノ上相
當ノ代價ヲ以テ引受クルヲ要ス若シ譲渡代價ニ付協議整ハサル場
合ニ於テハ双方ヨリ期限經過後ニケ月以内ニ其詳細ナル理由ヲ思
龍に況道國財省文部ニ具申シ撰擇仲裁人ヲ指定セサルハカラス其
評價其キ同文部ノ仲裁或ハ其喉托ニテ相當ノ代價ヲ以テ譲渡
ヲ結ス但シ政府ハ此等建物ヲ引請クル義務ナキモノトス

第十條 借區ニ關スル詳細ナル條項ヲ作り且ツ借區人ト締結スルコト

ハ薩哈噠島軍務知事ニ命ス同知事ニハ契約中ニ彼等違約シ
又ハ契約撤回ノ場合ニ處罰金徴収ノ條項ヲ加フルコトヲ委任ス